

今月から Pharmacafe を開店します。Pharmacafe は Pharmacology (薬理学) と cafe (喫茶店) の結合した単語です。私がこのコラム欄のために作った造語なので、残念ながらオックスフォード辞典には載っていません。このカフェでは薬にまつわる話を、気楽に読んでいただくことをモットーにしたいと思います。

そもそも Pharmacology の語源は何かと調べてみますと、元々はギリシャ語の pharmakon に由来しているようです。pharmakon の意味は時代とともに変遷し、魅力 媚薬 薬となっていくようです。現存している文献でこの語を最も頻繁に用いたのはギリシャの詩人ホーマーだそうです。面白いのはギリシャの悲劇詩人のエウリピデス(480-406 B.C.)やソポクレス(495-406 B.C.)は毒の意味で使ったらしいことです。まさに、使い方によって毒にも薬にもなる性質がギリシャの時代から認識されていたとすればその慧眼には感服せざるをえません。

くすりという日本語はくすり、あるいはくす師と言われていたように古くから使われていたことが分かりますが、その語源はよくわかりません。一方、薬という漢字の成り立ちは漢字の語源辞典に載っているのでご紹介しますと、まずこれはくさかんむりと楽から出来ています。人間の苦痛を取り除く草、人間が楽になる草という意味で薬である。確かにそうですが、楽の部分に関してはもう少し突っ込んだ考え方も出来るようです。楽はもともと叩くことを表した象形文字から出来ているそうです。楽器の楽でもあるわけですが、楽器の最も原始的なものは打楽器であるらしいのです。そのため、打楽器を演奏するときの気分が楽しいという意味になった。それはさておき、草を叩いたもの、すなわち草の抽出物を服用すると病気が治る、それで薬という漢字が出来たとも考えられます。つまり、楽しくなる薬というよりも、単に作成方法から薬の漢字が出来たとも解釈できるわけです。

私が知っている中国からきている留学生が面白いことを言っていました。日本語でくすりと発音しているのを聞く度に、その留学生はクスニと聞こえてしまうそうです。また、その人が発音するときも確かにクスニと言ってしまうのです。私は不審に思い、クスニではなくくすりであると指摘しました。そうしたところ、思わぬ返事が返ってきたのです。中国語でクースーニーは苦死称と書く。その意味は、あなたを苦しめて死に至らしめると言うことだそうです。そのために、日本語のくすりを聞く度に、この留学生は、

皮肉な意味がすぐに浮かぶと言うことが分かりました。くすりという言葉にちなんだ言葉の遊びで最も有名なものは逆さに読むと英語のリスクとなることは知っている人も多いでしょう。しかし、この留学生の言う中国語のクースーニーにひっかけた発想というのはユニークなもので感心しました。

版權©2000 へるす出版